

# 小平市議会定例会一般質問通告書

再質問の方式

1 一括質問一括答弁方式

② 一問一答方式

質問件名 多胎育児にやさしい施策で育児支援の充実化を急げ

質問要旨 (初めに質問全体の趣旨、次に具体的な質問内容を項目別に記入してください)

初婚年齢が上がったことにより30代、40代での出産はもはや当たり前のものになっています。これに伴い、少子化で出産件数が減少傾向にあるにも関わらず双子以上の多胎児の出産件数はほぼ横ばいで、相対的に出生率が上がる傾向にあります。しかし、多胎児ゆえの育児の大変さへの理解は進んでいるとはいえない状況です。2018年に発生した三つ子の母親が次男を虐待死させた事件を契機に「一つ間違えれば自分もそうなる可能性が充分にあった」「ひとごとではない」という意見が噴出し、NPO法人フローレンスが今年9月～10月に双子以上の多胎家庭1591世帯を対象に行ったアンケートでも、0歳育児でオムツ替え28回授乳18回、その合間に搾乳・沐浴・寝かしつけと母親はほとんど眠れない状況であることや、「外出・移動が困難である」とする人が約9割いるなど、改めて多胎育児の過酷で孤独な実態が明らかとなっています。小平市内でも今年9月から多胎児の親たちがサークルを立ち上げ、育児の実態についての啓発と適切なサポートを望む活動を始めています。悲惨な事故や事件をおこさないためにも多胎家庭への産前からの包括的な支援は急務といえます。こうした現状をふまえ、市の多胎育児の実態把握の現状や多胎家庭への育児支援策について、以下質問をいたします。

1. 小平市における多胎児の出生数について、過去5年間の推移をお示ください。
2. 市における、多胎家庭への支援策は現在どのようなものがありますか。
3. 乳児家庭全戸訪問事業により養育支援ヘルパーを派遣した家庭のなかで、過去5年間の多胎家庭への派遣件数の数が分かればお示ください。
4. ゆりかご・こだいら事業で妊婦面談を終えた方に渡されている育児パッケージ(こども商品券)について、どのようなことに利用されているか把握していますか。

上記のとおり、小平市議会会議規則第57条第2項により通告します。

令和元年11月18日 小平市議会議長 殿 小平市議会議員 氏名 山浦 まゆみ

受付番号【           】

|    |    |    |    |
|----|----|----|----|
| 27 | 26 | 25 | 24 |
|    |    |    |    |

-(    /    )